

I 第107回全国高等学校野球選手権茨城大会に向けて

◆ 栄冠は君に輝く ～応援65年の想い～

事務局長 森 利克



一高ファンにとっては最も心躍る夏がやってくる。部員たちにとっては青春の全てをかけた集大成・晴れ舞台である。

私の大好きな全国大会の大会歌「栄冠は君に輝く」の歌詞やメロディーが心の中に湧き上がる。作詞者は球児でありながら試合中のケガによる骨髄炎で右足を切断せざるを得なかった加賀大介である。歌詞は晴れ舞台を思わせる「雲はわき光あふれて・・・」に始まり、若人を讃える「・・・ああ栄冠は君に輝く」で終わる。作曲は昭和39年の東京オリンピックの入場行進曲を作曲した古関裕而である。以下は野球経験のない私がなぜ母校の野球を応援し続けることができたのか、本稿を夏本番に向けた応援メッセージとして捉えていただければ幸いである。

私が応援を始めた原点をたどれば一高入学を勧めた父親である。父親は旧制中学（現太田一高）に入学したものの家の貧しさからわずか一年で退学し、近所の造り酒屋で丁稚奉公を始めたそうである。昭和10年に18歳で海軍に入隊し、昭和20年の終戦まで駆逐艦の機関員とし北洋や南洋の警備に就いた。

私は里帰りしていた母親の実家（現在の日立市下深荻町）で生まれ、すぐ青森県の下北半島大湊を基地にしていた父親の元へ移った。父親は終戦後苦労して見つけた職場（日立の工場）で生き生きと働く学卒の姿を目にして、これからの日本には教育が大事と悟ったそうである。自分で経験した辛さややさしさもあったはずである。薄給のなか自分たちの生活費を削って男兄弟3人を教育してくれた。

一高野球部との関わりは入学した昭和35年からである。プラスバンドの一員として夏の大会を応援したが、既に3回も甲子園に出場していたことすら知らなかった。以後65年間母校の応援を続けられたのは以下に述べるいくつかの偶然な出会いからである。

昭和51年7月30日の県営球場、先の3月の選抜でノーヒットノーランを達成した戸田投手を擁する鉾田一との準決勝である。応援席の隣で「哲也ー！」と何度も大声で応援するおじさんがいた。試合は2-3で惜敗したものの自然に話が弾み、その夜は私の新築したばかりの自宅で杯を交わしたのである。彼は大子中出身の主将滝田哲也君の父親であった。

平成15年には90歳を過ぎた母親がお世話になっていたグループホームで施設長の山口さんと出会った。会話のなかで偶然息子さんが一高の内野手であることが判り、年間の練習試合予定表を入手できたことで応援に火が付いた。最初の練習試合応援は平成16年3月の佐和高戦である。以降21年間は練習試合を含め殆どの試合を応援してきた。同時に自然に父母の会や水府倶楽部の皆さんとの交流が始まり、三の丸倶楽部創設へと進展したのである。



平成18年3月、高校合格発表の朝に大甕駅のホームで素振りをしながら友人と楽しそうに会話している賢そうな少年がいたので、思わず「今日は高校入試の結果発表だよ。合格したら高校で野球やらない?」「水戸一高に合格したら野球を続けたいと思っています!」。なんという偶然であろうか。彼はその後平成19年秋季県大会ベスト8進出による21世紀枠推薦につながる中心選手として活躍し、早稲田の副将、連盟のベストナインとしても活躍した高橋直樹君である。

平成21年の昭和38年卒同期会で出会ったのがその後応援の盟友となっている廣木正倫君である。彼とは3年間一度も同じクラスにはならなかったが、私以上の一高ファンであり、小学校時代から一高を応援していたそうである。一高在学時代にはクラスの友人が机を教室外に隠してくれて授業欠席を免れ、応援に通ったそうである。彼は野球に関する幅広い知識と米大リーグを何度も観戦した経験を元に、平成26年3月発行の会報第12号から8回シリーズで野球部への激励記事を寄稿してくれた。今でも横浜から応援に来てくれる熱心な三の丸倶楽部の会員である。

三の丸倶楽部が創設されて17年が経過した。現幹事6名、元幹事を含めると約15名の協力により、会報年2報発行、用器具寄贈、遠征費支援、コーチ謝礼など具



入学した孫娘との応援(令和5年夏)

体的に野球部を支援できるまでに発展した。当初の会員は約120名であったが、現在は約230名、元会員を含めると約400名である。この間の卒業部員約200名やそのご家族、水府倶楽部の皆さんとの交流は今でも続いている。

大好きな母校の応援で活力を得てきたので、後期高齢者としては大変ありがたいことであるが、4月下旬に初めて体調の悪化(心房細動)を経験した。

◆ 燃えろ！悔しさを胸に 一球入魂

硬式野球部父母の会会長
大沢 健一

三の丸倶楽部の皆様、日頃より水戸第一高等学校硬式野球部へのご支援・ご声援を賜り、また父母の会の活動に対しご指導・ご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。



早いもので、昨年7月17日の守谷戦後、新チームがスタートし1年が経過しました。第107回全国高等学校野球選手権大会を迎えるにあたり、振り返ると、昨年の先輩方が秋・春の大会でベスト4に進出し、21世紀枠で関東・東京代表に選ばれ、夏の大会では第3シードを獲得するなど、素晴らしい成績を収めました。これらの成果の後に新チームがスタートしたことで、部員たちは大きなプレッシャーを感じながらのスタートだったと思います。

父母の会としましても、先輩方が見せてくださった景色や経験を活かし、部員たちを支えていこうという思いで活動を続けてまいりました。昨秋の大会では、先輩方から受け継いだ「野球道」を示し、短期間での部員たちの成長を確認するとともに、野球部が多くの方々に支えられていることを改めて実感しました。結果として県大会1回戦で敗退しましたが、春・夏に向けて大きな成長を遂げることができました。

冬の練習では、各家庭の協力のもと、食トレにも一生懸命に取り組みました。

そして迎えた春、心身ともに成長した3年生・2年生に、特色選抜廃止という厳しい受験を乗り越え

今までのような応援や三の丸倶楽部の活動は続けられないかもしれないと思い始めた先日、部員全員や若い水府倶楽部会員から録画した激励メッセージが届けられた。まだまだ踏ん張れ！ということらしい。気を取り直し、これまで愛聴してきた甲子園大会歌「栄冠は君に輝く」、「校歌」、第一および第二応援歌をUSBに収め、野球部に寄贈した。これらがグラウンドに流れる下で、夏本番に向けた練習が始まっている。体力と気力を回復させ、大会でまた「フレーーッ！フレーーッ！水高ー！」「大沢(キャプテン)ー燃えろー！」と大声で応援するつもりである。

そろそろ飛田穂洲および石井連藏両大先輩の業績に続く新たな歴史を刻むべき時期に来ている。71年ぶり4回目の甲子園は一大応援団で溢れ、場内には「栄冠は君に輝く」と校歌「旭輝く・・・」が響き渡る。奮い立て！水高健児！



令和6年選手権茨城大会三回戦 令和6年7月17日(水)
笠間市民球場 水戸一●8-15守谷

た8名の1年生を加えた総勢32名の部員たちが集まりました。地区予選を勝ち抜き、県大会1回戦では常総学院と対戦しました。平日にもかかわらず、多くの三の丸倶楽部の皆様やOB会の皆様がスタンドに駆けつけてくださいました。その素晴らしい応援の光景を見て、父母の会一同、心が熱くなり、伝統校・水戸一高の凄さを改めて感じました。結果として秋に続き敗退となりましたが、部員たちは秋よりも大きく成長した姿をグラウンドで見せてくれました。

そして、これから始まる夏の大会に向けて、部員たちを見守ってくださる先生方、全国屈指の後援会「三の丸倶楽部」の皆様、どのチームにも負けずOB会の皆様の想いを胸に、部員一人一人がそれぞれの力を発揮し、多くの方々に支えられていることに感謝しながら、全力で戦い抜いてほしいと思います。

我々父母の会会員も一致団結し、部員同様、秋・春の悔しさ、そして昨夏の悔しさを胸に全力でサポートしていきたいと考えておりますので、三の丸倶楽部の皆様には引き続きご指導のほどよろしく願いいたします。

◆主将 大沢 凜太郎

日頃より水戸一高硬式野球部への温かいご声援、ご支援を賜り、誠にありがとうございます。



夏の選手権大会まで、いよいよ残りわずかとなりました。私たちのチームには、新チーム当初から変わらず掲げてきた2つの言葉があります。それは、「妥協なし」と「愛されるチーム」です。「妥協なし」とは、仲間同士の関係性に関わらず、強くなるために本気で意見をぶつけ合い、互いに刺激し合うこと。その中で、言葉に責任が生まれ、自分自身も成長できるという意味です。「愛されるチーム」とは、校内外を問わず、地域の皆様やOB・OGの方々など、全ての人から応援される存在であるために、日々の生活からその意識を持って行動するということです。この2つの理念だけは、どんな時も徹底して守り続けてきました。私たちはそれを自信に変え、夏の大会に挑みます。

夏の大会は一発勝負です。勝負を分けるのは、最終的には「気持ち」だと思っています。だからこそ、どんな展開も起こり得るのが高校野球の醍醐味です。水戸一高の強みは「思考力」や「冷静さ」だとよく言われますが、それに加えて、私たちは集中力や忍耐力といった部分も鍛えてきました。考え抜きながらも、熱く、そして強い気持ちを持って、戦い抜きます。

応援よろしく願いいたします。

.....

◆マネージャー 岡野 梨渚

日頃より水戸一高硬式野球部への応援やご支援を頂き本当にありがとうございます。



夏の茨城県大会開幕まで残りわずかとなりました。3年生にとって甲子園に挑めるラストチャンスとなります。私からは今大会の「見どころ」をお伝えします。

現チームの強みは、チームのテーマである「妥協なし」の練習とコミュニケーションで培った一体感です。仲間を理解することで互いの弱み・強みをカバーし活かす団結した野球が見どころです。優勢な時の勢いはもちろんのこと、劣勢の時こそ落ち込まず、仲間と立ち向かっていく粘り強い姿勢は現チームならではの見どころです。

また基礎から鍛え上げた堅い守備にも注目です。内野の華麗で堅実なボール捌きと球際まで捕りきる

粘り強さ、外野の力強い送球と頭脳を使った大胆なポジションング、そして古宮・米川の二大エース率いる多彩な投手陣。県内トップレベルの堅守にご注目ください。そして打撃では春大でホームランを放った田中をはじめ、浅野、大沢、小原、手面のパワフルな打撃、足で掻き回す戸田や佐伯、小技が光る手塚など一本の線となって相手を崩す打線にも注目です。また一打で流れを持ってくる必殺仕事人の小黑や、変則投法で相手を乱す川上、一高のラッキーボーイ塙など、キーパーソンの活躍にも目が離せません。野球部員だけでなく、一高生徒やOB・OGの皆様、一高を応援してくださる方々全員で、茨城で最も熱く長い夏にしましょう。

「一球入魂」の言葉を胸に、一戦一戦を全力で戦い抜いていきます。応援よろしく願いいたします。

.....

◆マネージャー 松崎 結愛



日頃より水戸一高野球部への応援や支援を頂き、誠にありがとうございます。私たち3年生にとって最後の夏の大会がもう目の前で迫ってきています。開会式までの残りの日数を数えながら、みんなが今まで頑張ってきた努力や熱い思いを込めて戦う姿を早く見たいと楽しみに思う反面、まだまだこのチームで野球がしたいし、始まって欲しくないという不安な気持ちとでいっぱいです。

今回は、少しでもこのチームの魅力をお伝えしたいと思います。私たちのチームは、学年を問わず仲が良いです。ですが、練習中に疑問に思ったプレーがあったら、先輩でも妥協せず、意見を交わすなどしてプレーの質を高めています。守備タイムや攻撃の際のベンチの雰囲気はチームで一丸となっていて、仲間を信じながら野球をしているみんなの姿がとても好きです。

また、劣勢の場面でも諦めない粘り強さを持っています。負けず嫌いな選手が多く、チーム内で刺激し合いながら、自分の課題を潰していっています。球速の上がったピッチャーや食トレを頑張っている選手など、支えがいのあるチームだと思っています。そして、試合展開が劣勢のときでも主将を中心に、球場に熱い声を響かせながらプレーします。

水戸一高野球部のマネージャーとして、チームを支えられていることや、こんなにも魅力的な仲間と野球ができていることに感謝しながら、一瞬一瞬をかみ締め、全員で戦っていきます！まだまだ私たちの夏は終われません。応援宜しく願い致します。

◆ 第107回 選手権茨城大会の展望

三の丸倶楽部幹事 船橋 信正

第107回 全国高等学校野球選手権茨城大会		主催 (一財)茨城県高等学校野球連盟 朝日新聞社	
出場校91校 84チーム参加		期間 令和7年7月5日～令和7年7月26日	
△	1 常総学院	10日 水 ①	つくば秀英 43 △
	2 高専笠間	5日 水 11:10	石岡商 44
	3 太田西山	15日	東海 45
	4 鹿島	10日 水 ②	江戸川学園 46
	5 県西連合	19日	多賀 47
	6 海洋	11日 水 ①	藤代紫水 48
	7 大子清流	15日	東風 49
	8 水海道一	6日 水 ②	土浦一 50
	9 水戸工	11日 水 ①	茨城 51
D	10 茨城キリスト	22日 水 9:30	守谷 52 D
B	11 東洋大牛久	12日 土 ①	霞ヶ浦 53 B
	12 高萩清松	7日 水 ②	清真学園 54
	13 石岡一	16日	日立一 55
	14 太田一	6日 水 ③	下館一 56
	15 水戸農	12日 水 ①	麻生 57
	16 水戸桜ノ牧	20日	下妻一 58
	17 緑岡	13日 水 ①	鹿島学園 59
	18 ウェルネス	16日	土浦二 60
	19 取手松陽	7日 土 ①	水戸商 61
	20 取手一	13日 土 ①	鉾田二 62
C	21 下妻二	13日 土 ①	土浦日大 63 C
A	22 藤代	10日 土 ①	境 64 A
	23 土浦湖北	6日 水 ⑤	古河三 65
	24 磯原郷英	15日	勝田 66
	25 日立工	10日 水 ①	伊奈 67
	26 江戸崎総合	19日	岩瀬日大 68
	27 竜ヶ崎一	11日 土 ②	鬼怒商 69
	28 下館工	15日	日立北 70
	29 取手二	6日 土 ④	つくばサイエンス 71
	30 那珂	11日 水 ②	県東連合 72
D	31 常磐大高	22日 水 12:00	日立商 73 D
B	32 水城	12日 水 ②	土浦三 74 B
	33 水戸一	6日 水 ①	科技日立 75
	34 鉾田一	16日	水海道二 76
	35 中央	12日 土 ②	勝田工 77
	36 小瀬	20日	水戸英陵 78
	37 つくば国際	13日 土 ①	八千代 79
	38 牛久栄進	7日 土 ①	土浦工 80
	39 佐和	16日	那珂湊 81
	40 古河一	7日 土 ②	水戸三 82
	41 波崎	13日 水 ②	牛久 83
C	42 水戸啓明	13日 水 ②	明秀日立 84 C

《試合開始予定》
 ◎2試合の場合
 ①9:30 ②12:00
 ◎3試合の場合
 ③8:50 ④11:10 ⑤13:30

《使用球場》
 水 = ノーブルスタ水戸
 ひ = ひたちなか市民球場
 土 = J:COM土浦
 笠 = 笠間市民球場

高専笠間 = 茨城高専・笠間
 県東連合 = 波崎柳川・玉造工・茨城東
 県西連合 = 古河二・総和工・結城一・茨崎・石下紫峰

○水戸一野球部の戦力分析

現チームは、秋・春ともに県大会初戦で敗れてしまいましたが、能力の高い選手が揃っています。2年次から出場機会の多かった3年生に、力のある下級生が加わった現チームは、秋・春ともに4強だった昨年のチームに匹敵するポテンシャルがあると私は考えています。実際、この春以降の練習試合でも、専大北上、國學院栃木、八千代松陰、光南などの強

豪校相手に互角以上の勝負をしてきました。シード校相手でも十分に戦えるチームです。

守り勝つ野球を標榜してきたこのチーム、まずは、内野を守る大沢主将を中心にしっかりと守備で締まった試合を展開して欲しいと思います。今春の県大会で140kmの速球を連発した古宮をはじめとした投手陣、厚みのある上位打線にも期待です！

○組み合わせ～戦国模様の今大会～

秋・春の県大会を振り返ると、秋の8強のうち春でも8強に入ったのは常総学院のみ。各校の力は拮抗しておりどこが上位進出してもおかしくない、例年まれに見る「戦国」大会であると言えます。

水戸一はBシード水城のブロックに入りました。春4位の水城は強敵ですが、前記の通り、我が校はシード校相手でも遜色なく戦える力があります。こちらは夏の大舞台を一試合経験しあちらは初戦、という二回戦での対戦も有利に働くのではないのでしょうか。

この大一番を勝ちあがると上位進出の可能性の広がる組み合わせです。ただ、夏に懸ける高校球児の想いは皆強く、どこが相手でも一つ勝つのは大変な

こと。一戦必勝、まずは初戦の鉾田一戦に力を出し切り勝利して欲しいと思います。

○応援・声援をお願いします！

組み合わせ表の通り、一回戦・二回戦ともに、休日(土 or 日)のノーブルホームスタジアム水戸での試合となりました。ぜひ球場に足を運んでいただき、スタンドを臙脂(えんじ)に染めてくださいますようお願いいたします。

スタンドでは、このチームを支えてきた岡野、松崎、千明、峯岸のマネージャー(ベンチ入りする1名を除く)、データ班の福田、横山も懸命に応援しています。彼女ら彼らと一緒に選手にエールを送ってください！

II シリーズ記事 「大学野球を目指す後輩部員たちへ」

三浦 太輝

令和6年卒



こんにちは。令和6年卒、東北大学経済学部2年の三浦太輝です。大学ではデータサイエンスコースでの大学院進学に向けて、プログラミングや統計学を主に学習に励んでいます。

私は、高校生の頃から大学野球へのあこがれを強く持っていたのと、野球をまだあきらめたくないという自分の我儘で、大学でも硬式野球部に入部を決めました。弊部は仙台六大学野球連盟に所属しており、Aクラス入り(3位以上)、さらには神宮大会出場を目標として日々切磋琢磨しています。仙台六大学は、今春全国制覇を果たした東北福祉大をはじめとする6つの大学で構成されており、リーグ内に侍ジャパン強化宿泊参加選手が7人いるなど、非常にレベルの高いリーグです。またその他にも毎年七大戦があり、旧帝大内での熱い戦いも行われます。こういった環境の中で、野球に全力で打ち込めるのが大学野球の一番の魅力であると感じています。

大学野球と高校野球で大きく違うと感じる点は、学生が主体となって活動を行うところです。東北大野球部は監督はいるものの、監督の仕事は主にメンバー決めやサインを出すのみで、練習内容の決定や練習試合の申し込みなどは全て学生が行います。また、学業も忙しいため、全体練習の時間はかなり限られており、全体練習では主に実戦練習が中心になるのに対し、基礎練習や筋トレなどの個人のレベル

アップは、各々の自主練に任されているという点でも個人の主体性が重要になります。逆に言えば、勉強とバイト以外の時間は全て自主練に当てることができ、高校の頃時間がなくてできなかったことにもチャレンジすることができます。学生が主体となって様々なことに挑戦できるうえ、高校の頃より野球に充てられる時間も長いため、今やっている野球が楽しくて仕方がないです。秋のリーグでは皆さんにも自分の活躍している姿を見せられるよう、努力してまいりますので応援よろしくをお願いします。

最後に高校生にメッセージを伝えさせていただきます。高校野球の3年間はあっという間とよく言いますが、とはいえ3年もあります。その3年間ずっと気持ちを張って、甲子園を目指して必死に努力し続けることは難しいことです。結果が出なくて落ち込んで、やさぐれることだってあると思います。でも、一番大事なことは「続ける」ことだと思います。常に気持ちを張っていなくたっていいし、時には全力でなくたっていい。いつもはベンチプレス 80kg上がっても、今日は75kgしか上がらなくたっていい。1番大事なことは、毎日やると決めたことを続けることです。続けたら報われるとは僕の口からは言えないですが、これまでめげずに続けたという事実が、きっと皆さんの自信に繋がり、それがいい結果に繋がるはずですよ。ぜひ、悔いのないよう頑張ってください。水戸一野球部のOB同士でまた大学野球で戦えることを非常に楽しみにしています。





部長
井坂 拓海
社 会



監督
木村 優介
体 育



コーチ
渡辺 敏崇
常陽銀行



顧問
清宮 直樹
物 理



顧問
武本 夏子
美 術



顧問
野々下 奈都子
英 語



大沢 凜太郎
3年 主将
内野手
右投・右打
下館中

考え抜きながらも、熱く、そして強い気持ちを持って、戦い抜きます。
(詳細は3ページに掲載)



浅野 光春
3年
内野手・投手
右投・右打
大野中

秋・春で味わった悔しさを胸に、これまで必死に練習に取り組んできました。最後の集大成を見せられるように頑張ります。



岡野 梨渚
3年
マネージャー
府中中

「一球入魂」の言葉を胸に、一戦一戦を全力で戦い抜いていきます。
(詳細は3ページに掲載)



小黒 瑞貴
3年
外野手
右投・左打
笠原中

最後の夏大の最高の舞台に向け、一瞬の判断力と勝負強さを磨き、今までの努力の成果を発揮したいです。



小原 将義
3年
外野手・捕手
右投・右打
大宮二中

秋から自分の中で大切にしてきた「勝負強さ」を突き詰めて、ここぞで1本出してチームの勝利に貢献します。



川上 敬太郎
3年
投手
右投・右打
那珂湊中

変則投手として打者を翻弄し、声と気迫で仲間を鼓舞し、誰よりも熱くチームを支え、甲子園に行きます！



古宮 寛之
3年
投手
右投・右打
下根中

一球一球に魂を込め流れを呼ぶピッチングでチームを甲子園に連れていきます。



田中 宏樹
3年 副主将
内野手
右投・右打
水戸四中

自分の野球人生に携わっていただいた全ての方々に恩返しができるよう、自分のベストを尽くします。



手塚 爽太
3年
内野手
右投・右打
太子西中

お世話になった人に感謝を伝えられるように、少しでも長く最高の仲間と野球が楽しめるように頑張ります。



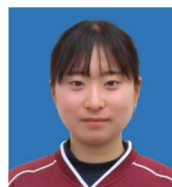
戸田 然
3年
外野手
右投・左打
玉里学園

日頃から支えてくれる全ての方々に試合に勝利して恩返しします。応援よろしくお願いします。



埴 竜太郎
3年
外野手
右投・右打
金砂郷中

これまで苦楽を共にしてきた仲間と野球ができる喜びを噛みしめ、支えてくださった方々への感謝を胸に精一杯プレーします。



松崎 結愛
3年
マネージャー
友部中

一瞬一瞬をかみ締め、全員で戦っています！
(詳細は3ページに掲載)



米川 惟希
3年
投手
右投・右打
水戸四中

高校野球最後の試合今までやってきたことを出し切り、悔いの残らないよう最後まで戦いぬく。



金澤 健剛
2年
外野手・投手
左投・左打
水戸一附属中

どのような場面でも自分の持ち味を発揮できるように全力を尽くし、三年生とともに甲子園出場を掴み取ります。



軍司 蒼士郎
2年
投手
右投・右打
大宮中

三年生と闘う最後の夏。全力でチームに貢献します。応援よろしくお願いします。



齊藤 悠大
2年
外野手
右投・左打
大野中

3年生とこれまで過ごした時間やたくさんの経験の結晶を夏に表現して甲子園へ挑むぞ！



佐伯 拓海
2年
外野手
右投・左打
銚田北中

3年生との野球はまだ終われない。後輩らしいプレーでチームを支え、どこよりも長く暑い夏にする。



高瀬 翔太
2年
内野手
右投・左打
岩間中

ここまで共にしてきた仲間と1試合でも多く戦えるように一戦必勝で勝ち進む。行くぞ。甲子園。



千明 由奈
2年
マネージャー
明光中

3年生とのかけがえのない時間を噛み締めて全力でサポートし、万全の状態を夏を迎えて一緒に戦います。誰よりも熱く応援します。



手面 太志
2年 副主将
捕手
右投・右打
下館南中

3年生との野球を全力で楽しみ、チームの勝利に貢献できるように一生懸命頑張ります。応援よろしくをお願いします。



福田 楓
2年
データ班
茨城大附属中

大会が始まるまでに、選手の力をより引き伸ばせるように工夫して活動していきたい。当日は仲間と共に全力で応援したい。



宗方 優太
2年
投手
右投・右打
岩間西中

3年生とプレーできる最後の大会、今までの感謝の気持ちを込めて全力でプレーし、自分のピッチングでチームを甲子園に導く。



横山 和央
2年
データ班
石川中

自身二度目となる夏の大会。データを用いた有利な局面を導けるよう頑張ります。



吉野 翔太
2年
外野手
右投・右打
水戸四中

今のメンバーと少しでも長く一緒にプレーするために今の自分にできることを最大限し、甲子園に行けるよう全力でがんばります。



金澤 楓弥
1年
投手
右投・右打
日高中

3年生と少しでも長く野球ができるように自分に出来ることを精一杯頑張ります。



金子 裕介
1年
捕手
右投・右打
大島中

1年生として、2・3年生が思い切りプレーでき、甲子園出場という目標を達成できるように、サポートしていきます。



杉野 智紀
1年
内野手
右投・右打
見川中

3年生と一緒に野球ができる一瞬、一時を大事にして、水戸一の野球を全面に出していきたいです。



寺門 諒真
1年
外野手
右投・右打
大宮中

甲子園出場のために自分ができることを常に考え、練習し、ひとつひとつの試合でのチームの勝利に貢献していきます。



深谷 真生
1年
外野手
右投・右打
協和中

1年生として2,3年生が精一杯プレイできるように全力でサポートしていき、チームに貢献できるようにしたいです。



丸山 明琉灯
1年
内野手
右投・右打
水戸四中

チームが勝つために自分のあるべき姿や振る舞いを考えてチームの戦力になれるよう頑張ります。



峯岸 奏実
1年
マネージャー
水戸一附属中

選手達が悔いのないプレーをすることができるよう、全力でサポートします。応援よろしくをお願いします。



谷部 侑吾
1年
内・外野手
右投・右打
水戸四中

先輩達の最後の大会、先輩達が最大限のパフォーマンスをできるように、自分にできることを全力でやりたいです。



前会報第34号(令和7年4月1日発行)以降の活動状況と野球部に関わる動きを時系列的に報告します。

(1)今年度の新しい試みとして、年会費以外に寄付の形で支援強化をお諮りする文書を前会報に同封してお届けしたところ、別表1の通り多くの皆様からご協力いただきました。(掲載を辞退された会員もいます)さっそくその一部を3月の仙台遠征バス代に充てさせていただきました。改めてお礼申し上げます。

(2)4月1日付の教職員異動により、顧問の石井先生が県教育委員会へ移動され、附属中の鈴木先生が退職されましたので、後任として清宮先生(物理)と武本先生(美術)が新しい顧問として就任されました。

(3)4月には8名の新生が入部し、現チームは三年生13名(内マネージャー2名)、二年生11名(内マネージャー1名、データ班2名)、一年生8名(内マネージャー1名)、計32名となりました。

(4)4月の春季大会では県大会へ出場したものの初戦で常総学院に敗れました。

(5)今週末に開幕する茨城大会に向け、6月21日(土)には父母の会主催、水府倶楽部および三の丸倶楽部協賛の必勝祈願が吉田神社(水戸)で行われました。さらに、学校行事として6月25日(水)には応援練習が、翌26日(木)には壮行会が行われました。

(6)本会報はその茨城大会に向けた応援特集号として編集しました。巻頭記事としては私から応援65年の想いを寄せました。大沢主将、二人の三年生マネージャー、父母の会の大沢会長からは大会に向けた決意を寄せていただきました。シリーズ記事としては、東北大学の硬式野球部で活躍中の令和6年卒三浦太輝君から激励の記事を寄せていただきました。

◆応援うちわを配布します!◆

水戸一高の初戦7月6日(日)に、ノーブルホームスタジアム水戸の一高側応援席で、倶楽部オリジナルうちわを無料配布いたします。当倶楽部の関係者を見かけましたら声をかけてください。

数に限りがありますので、なくなり次第終了となります。



(7)県高野連から発表された7月以降の公式戦の予定の概要は別表2の通りです。

(8)本倶楽部の活動は幹事6名による幹事会で検討し進められています。また、会計監査は元父母の会会員の池永充宏氏にご協力いただいています。

別表1 ご寄付をいただいた方々 (敬称略)

笠井昭夫/速水要/廣木正倫/木村安志・典子/川和田齊/郡司忠/鄭台仁/寺門一義/弓野仁寿/横田利央/坏なぎさ/石川暢/打越慎一/大沢満佳/大貫恒夫/鬼澤真一郎/後藤和浩/小林広明/眞田高明/島田洋次/鈴木一弘/鈴木敏之/徳永俊昭/富田直也/森利克/綿引義城/加藤弘士/川又慶一/木村則幸・さち子/橋幸市・順子/小室昭洋/住谷啓一/谷口祥/矢口武和/横須賀康博/飯田陽久/鹿島陽夫/川畑祐清/佐川紀美夫/高村純平/田村克彦/津田裕司/照沼貞夫/戸崎勝章/橋本孝/藤田昭子/船橋昭昌/船橋敦子/船橋信正/前田克也/松倉則夫/村上和彦/乾正枝・多恵・晴菜/高田敬

別表2 令和7年度公式戦予定(令和7年7月以降)

月	日	大会
7	5	全国選手権茨城大会(~26日まで)
	31	秋季地区大会一次予選組合せ抽選会
8	3	全国選手権大会組合せ抽選会(大坂フェスティバルホール)
	5	全国選手権大会(~22日まで)(甲子園球場)
9	18	秋季地区大会一次予選(~22日まで)
	3	秋季地区大会二次予選組合せ抽選会
	7	秋季地区大会二次予選(~11日まで)
10	16	秋季県大会組合せ抽選会
	20	秋季県大会(~10/5日まで)
	9	秋季関東大会組合せ抽選会(毎日新聞東京本社)
10	18	秋季関東大会(山梨県開催)(~26日まで)

別表3 令和7年度前半新入会者(令和7年6月22日現在) (敬称略)

No	氏名	居住地	備考
1	秋田 孝広	小美玉市	令和5および7年卒父母の会会員
2	大高 淳	常陸大宮市	知道会会員(昭和54年卒)
3	竹之内 等	水戸市	知道会会員(昭和56年卒)
4	星 浩一	水戸市	令和7年卒父母の会会員
5	宮川 猛	笠間市	令和7年卒父母の会会員

◆水戸一高附属中生に対する野球文化継承の取り組みについて

去る6月7日(土)、水府倶楽部主催による「水戸一高附属中生向け体験野球教室」を開催しました。このイベントは、「学生野球に深い由縁のある水戸一高に進学する附属中生に、野球の楽しさや野球の歴史などを知ってもらいたい」という目的から企画・開催したものです。

この体験教室に先立っては、御厩校長先生はじめ学校の取り計らいにより、5月13日(火)の授業の一コマにて、水戸一高附属中の1年生を対象に、報知新聞編集委員の加藤弘士さん(水戸一高OB)による特別講演「水戸一高はなぜ日本野球において『聖地』の一つであるのか」が実施されました。講演後には、硬式野球部練習見学(希望者のみ)も行われました。



これらを受け、6月7日の体験野球教室には、男子生徒17名の申込みがありました。(男子のみが対象ではありませんが男子に限れば)男子120人中17人(7人に1人)、一年生男子に限れば40人中12人(3割)と想定を超える数字となりました。

当日は、有村嘉透君(平成22年卒)、根本海渡君(平成26年卒)、古谷崇晃君(令和3年卒)、野々下光君(令和4年卒)、秋田啓人君(令和5年卒)の5名の硬式野球部若手OB有志が指導者を務めてくれました。野球初心者の生徒も多数いましたが、ボールを使って、投げる、捕る、打つという機会は新鮮だったようで、みな楽しそうにプレーしていました。「集団で練習する」ということも楽しさを増す要因だったように思います。

水府倶楽部では、これに加え、附属中生を対象に定期的に練習する野球教室「水府野球アカデミー」を開講しました。こちらは男子生徒20人の申込みがあり、附属中男子生徒の6人に1人が申込んだこととなります。既に6月14日(土)に初回を開催しました。今後、月に2回程度と限られた機会にはなりますが、運動部のない水戸一高附属中の生徒に対して、野球に触れる機会を少しでも増やしていきたいと考えています。



参加者の中から、未来の水戸一高硬式野球部員(選手・マネージャー・データ班)が誕生すれば嬉しい

限りですし、部員とならなくても野球や硬式野球部のよき理解者・応援者を増やす意義はあると考えています。

今後ともこのような取り組みを通じて、水戸一高における野球文化の継承につなげていく所存です。

◆水府倶楽部 在京例会が開催されました

去る5月9日(金)、KKRホテル東京にて、水府倶楽部在京例会が開催されました。在京例会は、年に一度、首都圏に居住しているOB・OGが近況を報告し親睦を深める趣旨の懇親会です。以前は年配者の参加がほとんどでしたが、昨年より、新たに在京地区の大学に進学した若手OB・OGの精神的な支援、就職活動中のOB・OGへの支援などを行うべく、若手に積極的に声掛けをしております(会費も配慮しました)、若手参加者が増えています。

今回も、今春卒業したばかりの令和7年卒業組からは、早稲田大学野球部に入部した秋田悠人君など2名。令和6年卒業組からは当時主将を務めた村田遼真君や同じく早稲田大学野球部マネージャーを務める井澤更紗さんなど4名。令和5年卒業組からは医学群所属ながら筑波大学硬式野球部でマネージャーを務める中村颯一郎君など4名。その上の世代も、堺堀史也君(令和4年卒)、佐次泰晟君(令和3年卒)など懐かしい名選手たちが元気な姿を見せてくれました(紙幅が許せばもっと多くの名前を紹介したかった・・・)。

現役野球部からは木村監督と井坂部長、来賓として報知新聞編集委員の加藤弘士さんも参加していただきました。

和気あいあいとした雰囲気の中、それぞれ旧交を深めるとともに、初対面の先輩と後輩が就職や仕事の話をするという貴重な機会にもなりました。写真のように、18歳から80歳代まで一堂に会する機会はとても稀有だと思います。



水府倶楽部では、野球部在籍中のみならず、卒業後のOB・OGと継続して繋がりを保ち、様々な観点から支援をしていきたいと考えています。来年の在京例会は5月15日(金)に開催します。三の丸倶楽部会員のご親族等で首都圏在住のOB・OGがいらっしゃるれば、ぜひ参加をお勧めください(首都圏在住でなくても参加可能です!)

VI 試合結果

令和7年春季大会 地区代表決定戦

試合日: 令和7年4月10日(木) 天候: 曇
 球場: 県営球場(L91m・C117m・R91m)
 オーダ-交換: 9:19 シートック: 9:29~9:36
 試合時間: 1時間51分(9:55~11:46)

	1	2	3	4	5	6	7	8	計
水戸工	0	0	0	0	0	0	0	0	0
水戸一	0	0	1	1	1	0	2	2	7

出場メンバー
 1番 セカンド 大沢 (3年)
 2番 センター 戸田 (3年)
 3番 サード 浅野 (3年)
 4番 レフト 小原 (3年)
 5番 キャッチャー 手面 (2年)
 6番 ファースト 田中 (3年)
 7番 ピッチャー 宗方 (2年)
 5回ピッチャー 古宮 (3年)
 8番 ショート 手塚 (3年)
 9番 ライト 佐伯 (2年)
 記録員 松崎 (3年)
 本塁打: 田中(4回レフト柵越えソロ)
 二塁打: 小原(7回) 田中(8回)
 単塁打: 小原(5回) 佐伯(7回・8回) 浅野(7回・8回)



令和7年春季県大会 二回戦(初戦)

試合日: 令和7年4月22日(火) 天候: 晴・曇
 球場: ノブルホームスタジアム水戸(L100m・C122m・R100m)
 オーダ-交換: 8:10 シートック: 8:18~8:25
 試合時間: 1時間28分(8:52~10:20)

	1	2	3	4	5	計
常 総	0	0	1	4	6	11
水戸一	0	0	0	0	0	0

出場メンバー
 1番 セカンド 大沢 (3年)
 2番 センター 戸田 (3年)
 3番 サード 浅野 (3年)
 4番 レフト 小原 (3年)
 5番 キャッチャー 手面 (2年)
 6番 ピッチャー 宗方 (2年)
 3回2/3ピッチャー 古宮 (3年)
 7番 レフト 埴 (3年)
 5回代打 金澤 (2年)
 8番 ショート 手塚 (3年)
 9番 ライト 佐伯 (2年)
 記録員 千明 (2年)
 単塁打: 手面(5回)

令和7年前半準公式戦 結果

大会名	月	日	球場	結果	バッテリー	二塁打	単塁打
水無月杯	6	1	常磐大高球場	●2-11 緑岡	金澤(楓)・軍司・金澤(健)・浅野一手面	田中・大沢	金澤(健)

令和7年前半 (3/27~6/14) 練習試合結果

月	日	球場	結果	備考
3	27	ノブルホーム	○5-3 札幌南	6回終了
			○13-11 山形南	7回終了
4	2	仙台育英	●2-21 仙台育英	
	3	仙台一球場	●3-4 仙台一	
	6	いわき湯本	●0-8 "	6回終了
			○5-2 いわき湯本	
27	勝田工	○11-1 勝田工	8回終了	
		○12-9 土浦一		
5	5	宇都宮高	○7-0 宇都宮	
			○4-3 "	
	6	水戸一	○3-0 緑岡	降雨7回終了
			●9-10 蕨	埼玉県立
11	茨城東	○22-4 "		
		△5-5 小山西	栃木県立	
18	小山西	○7-5 "		
		○6-5 八千代松陰		
6	7	八千代松陰	●1-14 "	
			14	石橋
●1-3 石橋 (7回終了)	栃木県立			

三の丸倶楽部

顧問: 稲葉 節生(元茨城県教育長、前知道会会長)
 会長: 鬼澤 邦夫(元常陽銀行会長)
 事務局長: 森 利克
 幹事: 照沼 貞夫(H20年卒父母の会)
 鹿島 陽夫
 船橋 信正(水府倶楽部役員)
 飯田 芳久
 高村 純平(R5年卒父母の会)
 監査役: 池永 充宏(H23、24年卒父母の会)
 ===== 会員を募集しています =====
 ◇どなたでも入会できます。
 ◇特典: 会員グッズの配布(入会時)、会報(年2回)の送付、ホームページ「試合予定」・「試合結果」情報の閲覧など
 ◇年会費: 一口 3,000円(何口でも可)
 ◇振込先: 常陽銀行本店営業部 普通 2945619
 サンノマルクラブ カイケイ カシマタカオ
 ◇手続き: 氏名、住所、電話番号、メールアドレスをホームページ(<http://sannomaru-club.com>)からご連絡ください。



編集後記 大谷の二刀流復活に沸くMLB。巨人の低迷もなんのその、エスコンフィールド日ハムの人気も加わり、今年の空梅雨の如く熱いNPB。一時はJリーグ人気に押されていたが、やはり日本人は野球が好きなのだ実感させられる今日この頃だ。そして、さらに熱くなる甲子園大会が始まる。万全の熱中症対策をして、応援に球場に行きましよう。三年生には悔いのない戦いをして欲しい。(照沼)